

[連携事業報告]

いずみの国歴史館と 桃山学院大学との連携事業

森 下 徹

はじめに

桃山学院大学の正門を抜け、急な坂道を登りきった左手、宮ノ上公園の一面に、いずみの国歴史館（まなびのプラザ）がある。大学の校舎と同系色をした外壁の落ち着いた佇まいを見せている。そのためもあってか、大学の施設だと誤解されている市民の方も少なくない（もしかすると大学関係者も!?）。歴史館は、れっきとした和泉市の施設（教育委員会生涯学習部文化財振興課所管）であり、大学正門から歴史館へと続く道も、実は市道！なのである。

歴史館の認知度は、残念ながらその程度でしかないのだが、見方を変えれば、大学との連携にとって、これほど有利な条件はないともいえるだろう。そこで、この小論では、歴史館開館以来取り組んでいる桃山学院大学（主として桃山学院史料室）との連携事業について紹介し、その意義や課題について私見を述べてみたいと思う。歴史館の認知度向上と連携事業のいっそうの進展に寄与できれば幸いである。

1. これまでの主な連携事業

いずみの国歴史館は、1998年11月にオープンした歴史系の博物館類似施設である。常設展示「和泉市の歴史—考古学の世界—」では、池上曾根遺跡や和泉黄金塚古墳、泉北丘陵窯跡群（いわゆる陶邑）などを中心に、考古学からみた和泉市の歴史（旧石器時代から江戸時代まで）を通覧している。ま

た、考古学以外の調査研究成果についても、毎年2、3回開催される特別展や企画展において、随時公表している（たとえば、2014年度は、特別展「鑢tsuba 久保惣コレクションに見る武士の美」、冬季特別展「ほとけとひとと一和泉市内の仏像・仏画展2」を開催した）。

桃山学院大学とは、歴史館オープン以来、博物館学芸員課程への講師派遣や実習生の受け入れ（2015年度は8名）などの協力関係を築いてきた。また、2003年に桃山学院年史委員会（現、学院史料室）と協力して、特別展「地域新聞をよむ・まなぶ―戦前泉州の新聞・絵葉書・鉄道案内―」を開催したのを皮切りに、表（153頁参照）に掲げたように、企画展・特別展を共催し、学院史料室が所蔵する地域資料や国際教養学部原山煌教授のコレクション（錦絵、石版画、中国の年画、袖珍本ほか）などを展示する機会を得た。

そのほか、表には記していないが、経済学部佐賀朝准教授（当時。現大阪市立大学教授）および同島田克彦准教授のゼミや授業において、歴史館に収蔵している史料を活用いただいたこともある。また、歴史館や文化財振興課の職員が、大学の講義やエクステンションカレッジなどの講師として出講する機会もたびたびあった。

なお、2007年8月には、和泉市と桃山学院大学との間で、「知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など」をすすめるため、包括連携に関する基本協定書が締結されている。すでに歴史館と学院史料室の間では、協定書締結以前から、地域史や文化財をめぐる、学術的で双方向の連携関係が形つくられていたといえよう。

2. 2015年度の取り組み

2015年度は、以上のような蓄積をふまえて、いっそうの連携が進んだ1年であった。

①平成27年度春季特別展

2015年4月、桃山学院大学和泉キャンパスへの移転、泉北高速鉄道の和泉中央駅の開業、そしてトリヴェール和泉の本格街開きから、ちょうど20年という節目を迎えた。歴史館では、20周年を記念する特別展を計画し、学長室、学院史料室、原山教授らと協議を重ねた。その結果、大学の入学式が行われ

る4月2日から5月17日までを会期とする、春季特別展「和泉中央と桃山学院大学の20年 1995-2015」を開催する運びとなった。主催は、和泉市教育委員会と桃山学院大学で、泉北高速鉄道株式会社の後援を得た。

本特別展は、以下の4つのコーナーから構成した。

「Ⅰ新しい街の誕生」では、里山やみかん畑のひろがる、のどかな丘陵地帯が、和泉市の新都市として発展する様子を明らかにした。泉北高速鉄道からは、和泉中央駅開業の記念乗車券や駅の模型、電車のヘッドマークなど数多くの貴重な資料を提供いただき、充実した展示とすることができた。

「Ⅱ桃山学院のあゆみと和泉への移転」では、1884年の川口居留地に始めて、1995年和泉キャンパス移転に至る桃山学院の歩みをたどった。入学式の日を展示の初日としたのは、新入生（や保護者）にぜひ桃山学院の歩みを知ってほしいと願ったからである。なお、このコーナーについては、企画から実際の展示作業まで、基本的に学院史料室のスタッフに担当いただいた。

また、Ⅱのコーナーのなかに、NHKの朝ドラ「マッサン」にちなみ、桃山と縁のあったニッカウキスキー創業者竹鶴政孝と妻リタのゾーンを設けたところ、大変好評を博した。準備の過程で、歴史館の近くにお住いの方が、学院史料室も把握していなかった「マッサン」関係資料を所蔵していることがわかり、さっそく借用し、展示品のひとつに加えることができた。

「Ⅲ学院史料からみる大阪和泉モノ語り」は、学院史料室が所蔵する地元大阪和泉に関する資料から、庶民生活や文化の一端を浮き彫りにしようとしたものである。学院史料室は、学院のあゆみやキリスト教に関する資料だけ



展示風景

でなく、大学が立地する大阪・泉州に関する地域史料の収集にも積極的に取り組まれている。今回の特別展でも、古文書、絵図、地域新聞、郷土史本、鉄道案内など、多様な資料を借用し展示させていただいた。

「IV百年前の大阪紙モノ語り」のコーナーは、おおよそ今から百年ほど前にあたる、明治・大正期の大阪で印刷・発行された多種多様な刷り物・出版物を集めたものである。大阪名所を描いた石板画や絵葉書、引札のほか、天王寺で開催された第5回内国勧業博覧会関係の出版物、軍歌や俗曲、詩吟、剣舞などの袖珍本など、いずれも原山教授のコレクションである。

Ⅲ・Ⅳのコーナーは、地域の知の拠点ともいべき大学（学院史料室および原山教授）が所蔵する、地域資料を借用・展示したものである。貴重な資料を活用させていただくことができ、たいへんありがたいことである。

このほか、注目すべき出品に、1922（大正11）年製のヤマハオルガン（学院史料室蔵）がある。このオルガンは、桃山中学校の卒業記念として生徒たちが新生伝道館（桃山准教会、現大阪聖アンデレ教会）に寄贈したものである。このほど修復がなり、本特別展に借用するとともに、展示室内においてオルガンコンサートを実施することとした。展示室内でのコンサート、それも展示品を活用してのそれは初めてのことであったが、学院史料室や原山教授ら大学側の尽力で実現させることができた。

演奏は、オーガニストの細江和代氏（日本聖公会大阪聖ヨハネ教会）をお願いをした。会期中の毎週末（計7回）、30分程度のミニコンサートであったが、毎回数十名の聴衆が集い、「マッサン」にちなむ曲や聖歌、唱歌など懐かしの曲の数々を楽しんだ。細江氏の素晴らしい演奏と選曲のおかげで、毎回、会場一体となって唱歌を口ずさむシーンが見られたことが忘れられない。

また、会期中には記念講演会を開催し、西口忠氏（桃山学院史料室）「桃山学院のあゆみと『マッサン』」、原山煌氏（国際教養学部教授）「百年前の



オルガンコンサートの様子
※口絵にも写真あり

大阪刷モノ語り」の両氏にご講演いただき、和泉市からは白石耕治が「和泉中央丘陵発掘物語—1500年前のわがまち—」について報告をした。

以上、春季特別展は、大学と共催し、泉北高速鉄道の協力を得ることで、和泉中央駅開業と桃山学院大学の移転20周年を記念する、充実した展示となったといえよう。会期中の入館者数は、1861人であった。大学のゼミや授業単位での見学も、歴史館が把握しているだけで少なくとも9件あった。



講演風景

左…原山煌氏／右…白石耕治氏

※西口忠氏の講演については3頁～24頁を参照

②夏季特別展「戦後70年記念 戦争と和泉」

春季特別展に続いて、夏季特別展「戦後70年記念 戦争と和泉」においても、桃山学院大学の協力を得た。

夏季特別展は、戦後70年目の夏に際し、あらためて地域や市民生活と戦争・軍隊との関わりを、地域に残る史料から明らかにすることを企図したものである。基本的に市が所蔵する史料や市民のみさんから提供いただいた史料を中心に展示を構成した。学院史料室からも、信太山演習場の絵葉書、大阪大空襲の被害状況を記した戦災地図、出征兵士に贈った日の丸の寄せ書きの3点の史料を提供いただき、展示に厚みを加えることができた。信太山演習場の絵葉書は、戦前の演習場の景観を伺うことができる大変貴重なものである。寄せ書きは、1940年のものと思われるが、母親あるいは家族と思われる女性が認めた、「最後まで無事で」との一言が心に響く。

また、歴史講座「地域から考える戦争と平和」として、経済学部島田克彦

准教授とゼミ生の大橋康夫氏（社会人聴講生）に講演をお願いした。鳥田ゼミでは、和泉の地域史調査に取り組んでおり、歴史館や市史編さん室も協力していた。このたび、南横山村の軍人墓地調査（墓石調査および旧南横山村役場公文書の調査）の成果がまとまったことから、それについて講演していただくことになったものである。歴史館も協力した調査の成果を、歴史館において発表してもらう機会を設けることができ、学術的にもたいへん意義あることだったように思う。歴史講座には、多くのゼミ生や受講生も参加してくれており、学生教育の上でも意味あるものとなったのではないだろうか。

③桃山祭

11月の桃山祭では、学院史料室および泉大津市と共同で、地域連携のブースを出展した。出展にあたっては、泉大津市教育委員会村田氏に大変お世話になった。歴史館からは、「いずみの国歴史館と桃山学院大学との連携事業」と題して、「和泉中央と桃山学院大学の20年」展を中心に、連携事業の成果をパネルで紹介した。



桃山祭でのブースの様子

3. 連携事業の成果と課題

連携事業の成果と課題について、二、三私見を述べ、結びに代えたい。

これまでの経過を通覧してみて、あらためて痛感するのは、歴史館と大学との連携事業は、イベントへの協力のような一過性のものでもなく、委員や講師派遣といった一方通行のものでもなく、地域史や文化財についての、学術的かつ双方向の協働関係として成り立っているということである。また、その基礎には、歴史館開館以来蓄積されてきた、大学教員や職員との人間関係・信頼関係がある*。お互いの研究教育活動にプラスとなっており、いっそうこうした関係を発展させていきたいと思う。

ただし、必ずしも、歴史館の入館者増や知名度向上には結びついておらず、

せっかくの地の利を十分生かし切れていない面もある。春季特別展は、まさに桃山学院の歴史の展示であり、来館者増加のための仕掛けについても、いろいろと工夫いただいた（入学式での案内、学内への立看板設置、新入生ガイダンスでの告知等）。しかし、歴史館が期待したほどは、大学関係者の来館はなかったというのが、正直なところである。ぜひ、大学の全新生・全在校生、全職員に一度は来館してほしいものである。

そのために、たとえば、毎年4月は、歴史館に春季特別展のエッセンスをまとめた「和泉中央丘陵の開発と桃山学院大学の移転」のコーナーを設けるようにして、新入生教育のカリキュラムの中に歴史館見学を組み込んでいただくことはできないだろうか。また、今回のような学園祭への出展だけでなく、桃山学院史料展示コーナーを活用させていただき、学内において歴史館の出張展示を実施してもよいかもしれない。

とはいえ、入館者の増加や知名度向上は、あくまで結果であって、目的ではない。地道ではあるが、これまで通り、地域史や文化財をめぐる、学術的で双方向の協働関係を軸に据え、連携事業に取り組んでいきたいと思う。

（和泉市教育委員会文化財振興課）

参考文献

- 和泉市いずみの国歴史館『和泉市いずみの国歴史館 要覧』各年度版
和泉市いずみの国歴史館展示図録『地域新聞をよむ・まなぶ―戦前泉州の新聞・絵葉書・鉄道案内―』2003
同『描かれた戦争、創られるイメージ ―刷り物で見る日清・日露戦争と東アジア―』2010
和泉市いずみの国歴史館展示リーフレット『和泉中央と桃山学院大学の20年 1995-2015』2015
同『戦後70年記念 戦争と和泉』2015
『二〇一四年度島田克彦ゼミナール卒業論文集』2015.3
『佐賀朝ゼミ第8期生卒業論文集 地域社会史の調査・研究』2012.3

*歴史館と大学との協働関係を形成する上で、桃山学院史料室西口忠氏、国際教養学部原山煌教授には、大変お世話になった。西口氏は昨年度末、原山

教授は今年度末で定年を迎えられた。末尾となったが、この場をお借りして、あらためてお二人に御礼申しあげ、筆を擱くこととしたい。

表 歴史館と大学との主な連携事業

年 度	事 業 内 容
1999(平成11)年～	桃山学院大学 博物館学芸員課程 博物館実習生の受け入れ
2003(平成15)年	特別展「地域新聞をよむ・まなぶ —戦前泉州の新聞・絵葉書・鉄道案内—」 協 力：桃山学院大学・桃山学院年史委員会 記念講演：西口忠(桃山学院年史委員会)、津金澤聡廣(桃山学院大学特任教授)
2008(平成20)年	企画展「願いを込め 新春をいどる —中国年画の世界— 桃山学院大学図書館蔵品展」 共 催：桃山学院大学 記念講演：原山煌(桃山学院大学教授)
2009(平成21)年	桃山学院創立125周年・大学開学50周年記念 冬季企画展「描かれた戦争、創られるイメージ —刷り物で見る日清・日露戦争と東アジア—」 共 催：桃山学院大学 シンポジウム：原山煌(桃山学院大学教授)、青野正明(同教授)、 佐賀朝(同准教授)、旭堂南海(講師) 記念講演：原山煌(桃山学院大学教授)
	特別陳列「中国年画展」
2014(平成26)年	音★楽市 i n まなびのプラザ 桃山学院大学アコースティック・ギターサークル出演
2015(平成27)年	春季特別展「和泉中央と桃山学院大学の20年 1995-2015」 共 催：桃山学院大学 後 援：泉北高速鉄道 記念講演：西口忠(桃山学院史料室)、原山煌(桃山学院大学教授) オルガンコンサート：オーガニスト 細江和代(日本聖公会大阪聖ヨハネ教会)
	夏季特別展「戦後70年記念 戦争と和泉」 歴史講座：島田克彦(桃山学院大学准教授)、大橋康夫(桃山学院大学島田ゼミ)

大学と共催・協力した歴史館特別展・企画展のチラシ

和泉市いずみの国歴史館平成15年度特別展

地域新聞をよむ・まなぶ

戦前泉州の新聞 絵葉書 鉄道案内

れきしかん新聞 号外

和泉市いずみの国歴史館

和泉市いずみの国歴史館

和泉市いずみの国歴史館平成16年度企画展

願いを込め 新春をいさぐる

中国年画の世界

和泉市いずみの国歴史館

平成21年1月6日(火)～2月22日(日)

和泉市いずみの国歴史館

和泉市いずみの国歴史館

和泉市いずみの国歴史館平成21年度冬企画展

描かれた戦争、創られるイメージ

刷り物で見る日清・日露戦争と東アジア

和泉市いずみの国歴史館

2010年1月6日(水)～3月7日(日)

和泉市いずみの国歴史館

和泉市いずみの国歴史館 平成27年度春季特別展

和泉中央と 桃山学院大学の20年

1995-2015

和泉市いずみの国歴史館

2015年4月1日(水)～5月17日(日)

和泉市いずみの国歴史館

和泉市いずみの国歴史館 平成 27 年度春季特別展
和泉中央と桃山学院大学の 20 年
 1996-2015
 展期 4 月 1 日(水)～5 月 17 日(日)
 前期 4 月 1 日～4 月 28 日
 後期 4 月 29 日～5 月 17 日

戦える大正浪漫
 オルガンコンサート

大正時代に製造されたオルガンの音色が響く。
 日本聖公会大坂聖ヨハネ教会
 オルガニスト 堀江和代による演奏会での演奏会。
 多くの展示品に囲まれた空間で、大正のロマンに浸ります。

公演日 4 月 2 日(木) 4 日(土)
 12 日(日) 18 日(土)
 26 日(日) 28 日(土)
 5 月 2 日(日) 9 日(土) 10 日(日)

和泉市いずみの国歴史館
 〒544-1152
 和泉市いずみ 1-1-1
 TEL: FAX 0729-53-0302
 E: info@izumi-nokuni.or.jp

主催 和泉市教育委員会
 桃山学院大学
 後援 泉之南連誼会

和泉市いずみの国歴史館 2015年度 夏季特別展

戦後70年記念
戦争と和泉

2015年
8月1日(土)～9月27日(日)

歴史講座
8月8日(土) 地域から見た戦争と平和
 講師 高橋 隆夫(和泉市立歴史館長)
 内容 「戦争と和泉」(和泉市立歴史館蔵) 展示「和泉の戦争」
8月22日(土) 和泉の戦争と平和
 講師 高橋 隆夫(和泉市立歴史館長)
 内容 「和泉の戦争」(和泉市立歴史館蔵) 展示「和泉の戦争」

歴史館リレー講座
 人類の歴史と戦争-和泉の地域から考える-
① 8月15日(土)
 会場 和泉市立歴史館
 内容 和泉の戦争と平和
② 8月29日(土)
 会場 和泉市立歴史館
 内容 和泉の戦争と平和

和泉市いずみの国歴史館
 〒544-1152
 和泉市いずみ 1-1-1
 TEL: FAX 0729-53-0302
 E: info@izumi-nokuni.or.jp

主催 和泉市教育委員会